

第105回 日本美容外科学会 **スポンサードセミナー**

The 105th Congress of Japan Society of Aesthetic Surgery

アジアにおけるヘアエイジングと AGAに対する可視光線を用いた治療

▶ 日時: 2017年5月17日(水) 10:40~11:40

▶ 会場: B会場

座長

大阪大学大学院 医学系研究科 形成外科学
招聘教授

高田 章好先生

演者

日本臨床毛髪学会 常任理事
別府ガーデンヒルクリニック くらた医院 院長

倉田 荘太郎先生





演者

日本臨床毛髪学会 常任理事
別府ガーデンヒルクリニック くらた医院 院長

倉田 荘太郎 先生

▶ アジアにおけるヘアエイジングと AGA に対する可視光線を用いた治療

日本人やアジアに起源を持つ人種においてはコーカシアンに比べて黒髪が多い。黒髪を持つ人にとって薄毛は目立ちやすく、これは皮膚の色と髪の色コントラストが強いことに起因する。これに比べて欧米人や髪の色が淡い人においては皮膚色とのコントラストが弱いことから、薄毛が目立たない傾向がある。

髪の毛のエイジングと言えば薄毛と白髪が代表的である。これらのメカニズムは近年解明が進み、老化による薄毛についてはDNAのダメージにより17型コラーゲンの減少が起こり、その結果毛包上皮系細胞の分裂が抑制され毛包の縮小や薄毛に繋がる事が報告されている。色素幹細胞についても17型コラーゲンが減少することで娘細胞を作れなくなる結果、メラニン合成が出来なくなることが分かっている。

男性型脱毛症 (AGA) は男性においても女性においても起こりうる最も一般的な脱毛症である。その発症メカニズムはこの20年で明らかになっており、それに基づいた治療薬が開発されている。フィナステリドとデュタステリドはテストステロンを強力な男性ホルモンであるデヒドロテストステロンに変換する酵素、5 α 還元酵素タイプIIあるいはIの毛根での働きを阻害するものである。また外用剤のミノキシジルは

男女共に脱毛症治療に有効な成分として日本皮膚科学会ガイドラインでも推奨されている。このようなAGA診療ガイドラインは北米、日本、韓国、欧州で策定されているが、いずれもフィナステリドの内服、ミノキシジルの外用、さらに自毛移植を含んでいる。しかしながらAGA患者はこれらの治療だけでは満足していない例もあり、更に他の治療法を求める場合も少なくない。

一方、ここ数年で低出力レーザーやLEDによる育毛効果に対する報告が増えて来ており、その有効率も高いことが分かって来ている。これらの治療法は副作用の報告も無く極めて安全であるため、世界中へ広がりつつある。我々は狭帯域赤色LEDを用いた毛包の成長期誘導能について数年前より報告して来た。狭帯域赤色LEDはBL6マウスで成長期誘導を起こすのみでなく、ヒトの培養毛乳頭細胞においてHGF, Leptin, VEGFなどのmRNAを誘導し、ELISAではこれらの細胞増殖因子の増加が認められた。これらの現象は半幅の狭い特殊なLEDでのみ見られることが確認できた。LEDによる育毛は他のあらゆる育毛との併用可能であり、今後AGA治療の一手段として一般化する可能性がある。

略 歴

1983年3月	愛媛大学医学部医学科卒業	1999年1月	形成外科皮膚科美容外科くらた医院開設(別府市)
1983年5月	大阪大学医学部付属病院皮膚科・形成外科 入局	2006年4月	日本臨床皮膚外科学会理事
1986年6月	大分医科大学皮膚科・形成外科 助手	2007年11月	日本臨床毛髪学会理事長
1992年5月	ウィスコンシン州大学霊長類研究所招聘研究員	2012年1月	P&G Pantene グローバル顧問医師メンバー
1996年1月	大分医科大学医学部 講師(形成外科診療班主任)	2012年3月	株式会社アデランスメディカルアドバイザー